

## ラジオ漫筆

## 迷信はわれわれの周りにも

ハンダ鍍の鍍先はなぜ銅製なのか？

冒頭から誠に失礼な申し様ではあるが、電気ハンダ鍍の鍍先には何故銅を用いているのか？と問われたら、諸兄は何とお答なさる。銅は熱伝率が良いし、ハンダの乗りが良いからだ……。誠に以て御名答、NHKの「私は誰でしょう<sup>1)</sup>」だったら……。ハイ1000円……。という所だろうが、電気ハンダ鍍の鍍先には絶対銅でなくてはならないか、銅の方が具会が良いか？となると一寸考えさせられる。電気ハンダ鍍を用いている人々にとっては、鑪も又必需品となっている。ヤスリでゴシゴシやってはハンダの上をコテコテとなぶらせているのが現状ではないか？銅は誠に酸化し易い鉱物！である……。ハンダ鍍の使用中は常に電気を通して尻から高温で煽られているから、鍍先の銅は嫌も応もなく空気中の酸素とタイアップして酸化銅に出世する……。その結果は仲良くしてもらいたいハンダをボイコットして……。エイ面倒なとばかり鑪でゴシゴシやるから、見る見る内に鍍先は消滅して使いものにならなくなる。「風が吹けば酒屋が儲かる」の方程式？がここにも成立して、ラジオ・マンと鑪は切っても切れない腐れ縁が生れ、鑪屋が儲り、鍍先のスペアが売れるからハンダ鍍メーカー氏も儲かる……。程でもないかな……。

そもそも鍍先に銅を用いたのは……。よう大統領……。炙り鍍（ブリキ屋氏が愛用しているアレですナ……。hi）の場合にこそ必要なので、熱の保存性高く、ブリキ屋氏が用いる塩酸にも良く耐える等々の事から用いられた……。らしい……。

だが我々ラジオ・マンの愛用する電気ハンダ鍍は、鍍先が熱を保つ事は余り重視されない……。四六時中ヒーターで煽っているのだから……。むしろ容易に酸化し難くて、ハンダの乗りの良いものが立候補?! の資格ある訳。

では何が電気ハンダ銀の鍍先として良いのだろう、メーメー（迷迷）研究室で鋭意実験の結果……。!! 真鍮製鍍先の使用により、完全に鑪の追放に成功した。

真鍮鍍先は銅のその様に真黒く酸化する事も少く、一度ハンダを盛り込んで鍍先は常に気持良く適当に輝いており、何時でもハンダと仲良く握手してくれる。イライラしながら鑪でゴシゴシやる必要もないから、鍍先はいつも程良くトン

<sup>1)</sup> 【編注】NHKが1949年から始めたクイズ番組。1946年12月開始の「話の泉」、1947年の「二十の扉」に続く人気番組。1949年には「とんち教室」も始まった。これらの番組はGHQの指示により始められたもので、アメリカの人気番組の翻案だった。

ガッている。全くハンダ鍍<sup>ごて</sup>の先だけはトンガラカッていてもらわなくては困るものだ……hi。

要するに電気ハンダ鍍<sup>ごて</sup>の鍍<sup>ごて</sup>先には銅を用いなくてはならないとされていた我々の先入感<sup>ごて</sup>は、その昔あぶり鍍<sup>ごて</sup>時代の考え方をその儘に、迷信的に信奉して来たものらしい。

ハンダ鍍<sup>ごて</sup>メーカー氏も、電気ハンダ鍍<sup>ごて</sup>のニュー・フェースとして真鍮鍍<sup>ごて</sup>先のものを販売されては如何、儲けの方はよろしく、メーカー研究室へも御折半の程を……。いや儲からない事になるのかな……。

(真鍮鍍<sup>ごて</sup>先の具合の良い事は事実です。諸兄の御試用をお推めします。)

(T.S 老)

---

## PDF 化にあたって

本PDF は、

『無線と実験』(1950年1月号)

を元に作成したものである。

PDF化にあたり、旧漢字は新漢字に、旧仮名遣いは新仮名遣いに変更した。

ラジオ関係の古典的な書籍及び雑誌のいくつかを

**ラジオ温故知新**

<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/index.html>)

に、

ラジオの回路図を

**ラジオ回路図博物館**

<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/radio/radio-circuit.html>

に収録してある。参考にしてほしい。